

流体力学会誌「ながれ」の A4 判化について

「ながれ」編集委員会委員長 望 月 修[†]

お陰様で流体力学会誌「ながれ」への原著論文の投稿も増加致しております。特に、23 巻 4 号の巻頭言において、荒川忠一先生が数値流体力学シンポジウムの講演論文から「ながれ」へ投稿できるシステムについて解説して頂いてから、数値流体力学シンポジウムからの投稿が激増致しております。この投稿システムの利便さを受けて、本年度の日本流体力学会年会 2005 ではすでにご承知のように講演論文の投稿要領を従来のものと変更して、A4 判 2 段組、10 枚以下（標準 6 枚）、カラー可（<http://www.nagare.or.jp/nenkai/yoryo.html>）というように致しております。これらにより、講演論文を「ながれ」の原著論文として投稿できるようになりました。ただし、本誌は B5 判であるため、最終原稿として講演論文サイズの A4 から変更をせねばならないという不便さが問題として残っておりました。せっかく論文作成の工程を簡素化したにもかかわらず最後の部分でフォーマット変更しなければならないのは手間がかかります。であれば「ながれ」を A4 判化すれば、この問題は解決されるのではないかというのが自然な議論ですが、出版経費の問題があります。A4 判化によって出版経費削減となりうるか？最悪でも従来の予算の範囲内でそれが出来るのか？といったことを編集委員会で検討し、理事会で議論し

てまいりました。その結果、幸い、大幅な経費削減にはなりません。従来の経費の範囲内で A4 判化の目処が立ってまいりました。2004 度、編集委員会幹事である名大の戸田先生のご尽力で「ながれ」への投稿規定、手引き、執筆要項などを整備し、そのときの編集委員であった京大の石岡先生に TeX、名大の菱田先生に Word のスタイルファイルを作って頂きました。今回の A4 判化に伴い、これらの見直しを行う必要があります。その作業を編集委員会にて進めてまいりました。それらは流体力学会のホームページ（http://www.nagare.or.jp/nagare/nagare_index.html）からダウンロードして頂けます。来年度の 25 巻 1 号から A4 判の発行を予定致しております。これから「ながれ」への原著論文の直接投稿をお考えの会員各位におかれましては A4 スタイルで作成して頂きますようお願い申し上げます。これからも本誌のクォリティを落とすことなく会員各位へのサービスが行き届くよう努力して参りますので、会員皆様の暖かいご支援とご理解をお願い致します。なお、ご質問等がございましたら editors@otg.nagare.or.jp にお寄せ頂ければ幸いです。また、日本流体力学会のホームページも随時チェックされるようお願い申し上げます。

[†] 東洋大学工学部教授 E-mail : osamu@eng.toyo.ac.jp